

令和 2 年 5 月 19 日現在

機関番号：34304

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K03034

研究課題名(和文) 小学校英語指導者の英語力・指導力向上のための自己研修の実践とその効果に関する研究

研究課題名(英文) Self-Study Activities that Help Improve English Proficiency and Teaching Skills of Teachers at Elementary Schools

研究代表者

松永 舞 (MATSUNAGA, Mai)

京都産業大学・共通教育推進機構・教授

研究者番号：30351571

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は小学校英語指導者の英語力、指導力向上のための効果的な自己研修内容に関する実証的研究である。教職課程で小学校教員を目指す大学生を被験者とし、話すときの文法や教室英語等、小学校英語指導に必要な基本的な内容を自己研修課題とした。アンケート結果や個別インタビューの内容から、被験者の多くは自己研修を通して英語力、指導力が向上したと感じていることが分かった。一方で児童に通じる英語で話す能力をさらに身に付ける必要があるとの反省が多くみられた。以上のことから、自己研修は被験者の英語力、指導力向上に役立つこと、教師として何が足りないか、何を身に付ける必要があるか等の気づきを促す効果もあることが分かった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

英語教育専門ではない小学校教員が、英語指導のために必要な英語力・指導力を習得するためには自己研修が不可欠である。自己研修に関する研究がほとんど見られない中で、参加者による自己研修の実践を通して収集したデータを分析し、効果的な自己研修内容・方法を構築し、さらに指導者間に普及させようとする研究はこれまでに類を見ない。さらに、自己研修を指導者間に普及させることで、指導者自身が成長を感じ自信を持ち、その後の自己研修や英語指導にも前向きに取り組んでいけると考えた。この研究で提案した内容が多忙な現職教員の自己研修のきっかけになることを期待し、指導者の資質向上が児童の英語学習の質の向上にも貢献すると考える。

研究成果の概要(英文)：This study examined the effectiveness of a self-study activity which targeted Japanese university students enrolled in a teaching certificate program. It was meant to improve their English proficiency and teaching skills as future elementary school teachers. The participants participated in a self-study activity, such as grammar in speaking or classroom English, using an assigned textbook. Textual data from surveys and interviews were analyzed using KH Coder. The results suggested that the majority of the participants thought that their English ability and teaching skills had improved through participating in the self-study activity. The results also suggested that the participants noticed that they lacked oral English skills in order to make themselves understood in English. It seemed that the self-study activity provided the participants with an opportunity from which they could recognize areas for further improvements as a teacher.

研究分野：小学校英語教育

キーワード：小学校英語教育 自己研修 教職課程

1. 研究開始当初の背景

2014年9月に「英語教育の在り方に関する有識者会議」は『今後の英語教育の改善・充実方策について 報告～グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言～』を発表し、2020年度の新学習指導要領実施に伴い、小学校は中学年から外国語活動を開始し、高学年では教科として身近なことについて基本的な表現によって「聞く」「話す」に加え「読む」「書く」の態度の育成を含めたコミュニケーション能力の基礎を養うことを目標とするとした。また指導体制として、中学年では主に学級担任が外国語指導助手(ALT)等とのチームティーチングも活用しながら指導し、高学年では学級担任が英語の指導力に関する専門性を高めて指導し、併せて専科指導を行う教員を活用するとしている。さらに、小学校教員の中学校英語免許状(2種)取得も促進する、としている。つまり、新学習指導要領においても主な指導者は学級担任であり、指導対象・内容の拡充に伴いさらなる英語力・指導力が求められることになる。

2. 研究の目的

2020年度より小学校における英語教育は3・4年生が活動型、5・6年生が教科型として拡充強化される予定である。授業時数も増え、主な指導者となるが英語教育の専門性を持たない学級担任の英語力・指導力の向上が急務である。前2回の科研費の研究では現職教員を対象とした集団研修および自己研修の内容・方法を提示した。そこで本研究は、前研究で提示した英語力・指導力向上のための自己研修を実際に10名程度の小学校教員を目指す大学生に約3ヶ月間実践してもらい、収集した質的データの分析を通してその効果を検証したい。検証結果をふまえた、担任にとって実践可能で効果的な自己研修内容・方法を普及させ、英語指導に自信のない指導者の英語力・指導力を向上させることで、児童にとって質の高い英語教育を提供することに貢献したい。

3. 研究の方法

本研究は、前科研費研究で提案した「英語力・指導力向上のための効果的な自己研修の内容・方法」の効果を検証し、改善した内容・方法を小学校英語指導者に普及させることを目的とする。効果の検証として、教職課程で小学校教員を目指す10名程度の大学生に自己研修を3ヶ月間実践してもらい、学習記録、アンケート調査、インタビュー調査等の質的データを収集し、多角的に分析する。主に計量テキスト分析を通して客観的に、より効果的な自己研修内容を構築することを目指す。平成29年度(1年目)は自己研修実践準備および1回目実験の実施、平成30年度以降(2~3年目)は1回目実験の結果分析を土台とした2回目実験の準備、実施および検証、そしてより効果的な自己研修内容を構築し、その提案と普及活動を行う予定である。

4. 研究成果

平成29年度(1年目)

現職教員が必修後も特に不安を抱えており指導力の基盤になる英語力(話す文法と発音)を取りあげ、教職課程で小学校教員を目指す大学生10名にテキストを使って3ヶ月間の自己研修を実践してもらった。収集した質的データ(学習記録、アンケート調査、インタビュー調査等)を主

に計量テキスト分析した結果、今後はコミュニケーション力、リスニング力、正しい発音とスピーキング力向上のための自己研修に取り組む必要があると感じていること、小学校での英語指導に役立つという観点から今回の課題に積極的に取り組んだこと、課題テキストのレベルはもう少し高い方が良いこと、また、今回の課題を通して自身の模擬授業における児童に伝わる英語を話すことの難しさを思い出し、児童に伝わる授業の重要性を再認識したこと等が分かった。

平成 30 年度 (2 年目)

小学校英語指導者の英語力、指導力を伸ばすための自己研修の有用性を検証するために昨年度実施した、小学校教員を目指す教職課程の大学生を対象とした 3 ヶ月間の授業外での自己研修課題の実験に関するデータ分析を行い、論文としてまとめ、学会で発表した。具合的な自己研修内容は「スピーキングにおける文法力(話す文法力)」であり、練習の効果を英語力、指導力の観点から自己評価アンケート(事前事後 2 回実施)、さらに個別インタビュー(事後 1 回実施)を通して量的、質的に分析した。分析の結果、被験者は全般的に 3 ヶ月の練習を通して英語力、指導力が向上したと感じていること(アンケート結果より)、また練習を通してさらに英語力、特に児童からの予測できない質問に答えられる英語力を身に付ける必要があると感じたことが分かった(インタビューデータより)。授業外の自己研修は多くの被験者にとって、英語力・指導力を伸ばすだけでなく、自身の英語教師としての課題について振り返る機会を与えたようであった(インタビューデータより)。このように自己研修の有用性を確認したことから、平成 30 年度は新たな自己研修課題として「教室英語」を取りあげ、小学校教員を目指す教職課程の学生 9 名を対象とした(平成 29 年度とは別の学生)3 ヶ月間の自己研修課題の実験を計画、実施した。

平成 31 年度 (最終年度)

本研究は小学校英語指導者の英語力、指導力向上のための効果的な自己研修内容に関する実証的研究である。教職課程で小学校教員を目指す大学生を被験者とし、話すときの文法や教室英語等、小学校英語指導に必要な基本的な内容を自己研修課題とした。アンケート結果や個別インタビューの内容から、被験者の多くは自己研修を通して英語力、指導力が向上したと感じていることが分かった。一方で児童に通じる英語で話す能力をさらに身に付ける必要があるとの反省が多くみられた。以上のことから、自己研修は被験者の英語力、指導力向上に役立つこと、教師として何が足りないか、何を身に付ける必要があるか等の気づきを促す効果もあることが分かった。また、被験者(教職課程の大学生)は小学校での英語指導において役立つと判断する自己研修内容であれば積極的に取り組むことも明らかとなり、現職教員だけでなく、教職課程の段階から自己研修を有効活用する意義を見いだすことができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Mai Matsunaga, Yoshitaka Tanabe	4. 巻 -
2. 論文標題 Do Self-Study Activities Help Prospective Teachers Improve Their English Proficiency?	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Selected papers from the twenty-seventh international symposium on English teaching, ETA-ROC	6. 最初と最後の頁 264-280
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mai Matsunaga	4. 巻 -
2. 論文標題 Do Self-Study Activities Improve Pre-Service Teachers' Teaching Skills?	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Selected papers from the 28th International Symposium on English Teaching, ETA-ROC	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 1件／うち国際学会 4件）

1. 発表者名 Mai Matsunaga, Yoshitaka Tanabe
2. 発表標題 Do Self-Study Activities Help Prospective Teachers Improve Their English Proficiency?
3. 学会等名 ETA-ROC (English Teachers' Association Republic of China) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松永 舞
2. 発表標題 これからの外国語教育 新学習指導要領のポイントと新教材の効果的な使用方法
3. 学会等名 相楽地方小学校教育研究会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mai Matsunaga
2. 発表標題 Does a Self-Study Activity of Classroom English Improve Prospective Teachers' Teaching Skills?
3. 学会等名 The 17th Asia TEFL International Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Mai Matsunaga
2. 発表標題 Do Self-Study Activities Improve Pre-Service Teachers' Teaching Skills?
3. 学会等名 ETA-ROC (English Teachers' Association Republic of China) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Mai Matsunaga
2. 発表標題 Do Self-Study Activities of Classroom English Improve Prospective Teachers' English Proficiency and Teaching Skills?
3. 学会等名 Hawaii International Conference on Education (国際学会)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 (編著者) 樋口忠彦 高橋一幸 加賀田哲也 泉恵美子 (執筆) 松永 舞 他14名	4. 発行年 2017年
2. 出版社 教育出版	5. 総ページ数 277
3. 書名 Q&A小学英語指導法辞典	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	田邊 義隆 (TANABE Yoshitaka)		